

スポーツと環境取組み ～ きれい・安心で快適をめざして

報告【 新潟・イベントごみダイエット大作戦 】

報告日 04年7月31日

報告者 泉田 和雄

この7月3～4日、新潟で開催された「Jリーグオールスター」に行ってきました。目的は選手がオールスターならボランティアもオールスターでサポートしよう、という新潟のボランティアの呼びかけに対し、全国の15ものクラブのボランティアが賛同し、その中の一員として仙台から6名が参加したのです。会場は今年からJ1に昇格したアルビレックス新潟のホームであり、ワールドカップの会場ともなったビックスワン新潟スタジアム、今回はこの新潟の「ごみダイエット作戦」の取組みをレポートします。

ビックスワンは4万3千人の収容能力、それがゲームのたびにほぼ毎回満員となります。当然そこで排出されるごみは大きな課題となっていました。そこで、2003年秋から、「クラブ・行政・環境組織・ボランティア」が一体となった組織が誕生、「4万人のごみプロジェクト」がスタートしたのです。



◆ ごみオモチカエリプロジェクト http://albirex_niigata.at.infoseek.co.jp/gomi.html

◆ 「買い物でくらしを変えよう」ごみ半減県民運動HP

<http://www.pref.niigata.jp/cinsumer/movement.html>

仙台の2倍以上の観客に対し、オールスターではビジョンやアナウンスで分別や持ち帰りの呼びかけがされています。こうした減量の告知のほかに実際の活動は、ゲートわきのごみ分別が活動の柱です。「ごみ分別にご協力ください」という告知のほか、「燃えるごみ」「ペットボトル」「弁当容器・菓子類・プラスチック」、紙コップは積み重ねて回収、もちろんその下には「飲み残し用のバケツ」がおいてありました。取組みの内容は基本的なことをしっかり抑えて作られていると感じます。課題は、ボランティアが少なく、全てのゲート・ごみ袋設置箇所に配置ができないことから、レジ袋にまとめていれて捨てたり、

いい加減に分別をする人もまだいること、コップの種類がまだ多く、リサイクルルートに乗せていくためには、こまかい仕分けが必要と思われることなどでした。



新潟の活動のもうひとつの特徴、それは「クリーン・サポーター制度」でしょう。ゲームが終わると、場内の何箇所かに設置されたクリーン・サポーターの集合場所に行き、



そこで、ごみ袋とビニールの手袋を受け取って、スタンド内の清掃を手伝うというものです。よびかけるだけではなく、参加型とすることで広がり意識アップが図れそうです。



興行としてイベントがある以上、一定の食べ物の販売は今後も継続されると思います。しかし、いかにして「排出される中身を変えて減らしていけるのか」「排出されるものを分別し再利用できるのか」、クラブはもとより施設管理者・行政・販売する企業や売店・観客サポーター・ボランティア・環境組織それぞれに課題があります。新潟の取組みはスタジアムだけではなく、他のイベントにも視野を広げています。むろん、ごみが発生しているのはスタジアムですが、広い視野でみることで、問題が整理されることもあると思います。今後の進展に注目したいところです。



左の写真は、オールスター当日のボランティアの弁当の分別の様子です。全国からの102名の人々がこの状態を見て、そして、その取組みの記憶を持ち帰ってくれました。

「環境」の取組みは悪い方に簡単に戻ります。スタートしたばかりのところが多いため、持続するための苦労・負担は半端ではないと思います。しかし、その先にまっている「省エネ」「完全禁煙化」も含めて、互いに経験を共有しながら継続していきたいものです。